

250503-午後1時_勉強会

○皆様、こんにちは。5月3日、土曜日の勉強会を始めます。今日のタイトルは『時空を超えた生き方』となっております。

○時空というのは、時間と空間を合体させた言葉です。時空を超えるというのは、時間を超えるだけではなく、空間の枠組みからも抜け出し超えてゆくということです。私たちはいずれみんな、時空を超えた存在になり、行き来できるようになるということです。

○それは、靈体が大きくなつてゆくことで可能になります。「自分の人格の幅を大きくする、人間が立派になってゆくことで、靈体が大きくなる」というお話を聞いたことのある方がいらっしゃると思います。

○靈体が大きくなると、何が起こるかといいますと、いくつもの天地が同時に自分の中に存在する状態になります。

○例えば、幽界のような未成仏の人たちが住んでる世界から、神々や天使が住んでいる世界に至るまで、自分の魂の器の大きさを示す円、丸の中には、いろんな天地があるという状態なんです。

○それは何か特別な修行をしなきゃいけないとか、そういう話ではなくて、消えてゆく姿で世界平和の祈りをコツコツコツコツとやりつづけて、かつ、「人間というのは、ホントはこの体じゃなくて、神なんだな、神聖の存在なんだな」ということを、何の疑いもなく思える意識をご自分の中に育て上げることです。

○皆さん、そのようにご自身を育て上げてきたと思うんですけども、それによって私たちは、いつの間にか靈体が大きくなっているんです。

○ということは、ここに今いらっしゃる方々は、たくさんの人たちを赦し、受け入れることが出来る大きな心をお持ちの方々だということです。

○そういうふうに自分の靈体が大きになると私たちは、心が広く、大きくなります。それをはたから見ると、「なんか、あの人、立派だね」とか、「天使のような人だね」と見られる仕組みになっています。

○たとえば、我即神也の宣言文の中に『人が自分を見て、「吾は神を見る」と思わず思わせるだけの…』というところがありますが、ものすご

くぶっちゃけた話をしますと、他者(ひと)に「吾は神を見たる」と思ってもらうためには、私たち自身が自分に対して、「吾は神を見たる」と思っていることが前提条件なんですね。

○自分が自らの神聖を疑い、それでいながら、人様に「神を見たる」と思っていただけのことは絶対にありません。

○この考え方の応用で、自分自身の言動行為に対して次のようなことがいえます。

○他人を見たときに、「あの人、好きじゃないわ」「あの人、なんで、あんなことをやってるんだろう」「なんで、あの人、あんなこと言ってくるんだろう」と思うときは、他人を批判・非難・評価してしまってることなんですけれども、そういう想いを発した人は、天に向かって唾を吐いてる状態なんですね。

○上に顔を向けて吐いた唾は、必ず自分の頭に戻ってきます。どうしたことかといいますと、人様のことを、ああでもない、こうでもない、好きだ・嫌いだ、近い・遠いと思っているときには、自分が自分を愛していない、赦していない状態であることを示しているんです。

○それは、守護霊さまが「そういう部分があるよ」と教えてくださってるようなこと（表わして消してください）なんですね。

○他人の言動行為を見て自分の感情が揺れ動いたということは、自分の中にある不調和を知らせてくださっている、それに気がつくチャンスなんです。

○ここにいらっしゃる方々には、1回か2回かお話したかもしれないんですけど、私、2020年にZoom祈りの会の運営に関してものすごく悩んだ時期がありました。

○ちょうどコロナの始まりの頃ですね、3月から4月にかけてのことです。誰もが名前を知っているような有名な研究員の方、複数がクレーマーのようになってしまったんですね。

○お一人は、メールが受信できなくなつて困っておられたのですが、お酒を飲んで、べろんべろんに酔っ払って、気が大きくなってしまった状態で、夜の10時過ぎだったか、遅い時間だったと思いますが、私に電話

をかけてこられました。

○「メールが受信できないのはあんたのせいだ。どうしてくれるんだ」と、なんというか、ちんぴらかヤクザのような口調だったんです。

○私はそういう荒い口調で話したことがないので、再現はできないんですけども、映画やドラマで見るような、そういう口調でした。

○「これは…」と思いましたが、その方が納得されるように、メールが受信できるよう、その電話のやり取りの中で対処いたしました。

○電話はそれで終わったのですが、私の心は、まだその当時、2020年の春には練り上がりていなかったので、怒りがふつふつと湧いてきました。「なんでこの人、研究員のくせに」と思ってしまったのです。

○もう一人の方は、何かイベントを企画して実施しようとしておられて、それを2020年の夏だったかに計画されていて、「ピースレターで紹介してほしい」と私の方に依頼してこられました。

○皆さん、覚えておられると思いますが、あの当時、「パンデミック」という言葉が日常に出てくるようになって、白光真宏会でも富士聖地での行事がすべて自粛されていた頃でした。また、世の中全体が「自粛・自粛・自粛」という方向に動いておりました。

○ですので、私はそのメールを受け取ったときに、「これはなさらない方がよいのではないか」と思いました。でも、私の一存では判断できないので、中澤さんに相談いたしました。

○「こういうメールを〇〇さんからいただいたのですが、どうしたらよいでしょうか？ 常識的に考えたら自粛した方がいいですよね」と申し上げたところ、中澤さんも「そう思います」とおっしゃいました。

○私はその方に、その旨をお返事差し上げました。すると、その方が、もともと中澤さんとそりが合わなかったところもあったのでしょうかけれど、逆恨みしてこられたんですね。今度は攻撃的になってこられました。

○何やら、「剣と盾を持って立ち上がって、ナイフで刺してやる」みたいなことを、メールの文面に書いてこられたんです。研究員の方がです。たいそう悩みました。

○そしてやはり、そのやり取りの後にも、私の中に怒りが湧いてしまいました。「この方も研究員のはずなのに…」と思ってしまいました。

○それで、昌美先生、西園寺家のお世話をされてきた竹内さんに相談いたしました。

○その件についてお話ししましたところ、竹内さんは私にこうおっしゃいました。

○「齊藤さん。あのね、研究員と言ってもね、みんな普通の人たちだよ。変に信念が強い分、一般の会員さんよりたちの悪い人が多いかもね」。

○でも、その言葉を聞いても、私の慰めにはなりませんでした。竹内さんとのやり取りを終えて、私は目を閉じて考えました。

○その時、思い出したのが、昭和37年頃だったと思うのですが、老子さまが五井先生のお体を使って語っておられたときのお話でした。

○「他人(ひと)のせいなんてのはありやしないんだ。それをなんだ！人のせいにはばかりして！…」と、五井先生が怒鳴られたテープの話を覚えておられる方、いらっしゃると思います。私は、その話を思い出しました。

○その厳しいお話の後に、五井先生はやさしく解説してくださいました。「人に何か悪いことを感じるというのは、ぜんぶ自分の責任なんだよ」と、本当のこと教えてくださいました。

○でも、そういう系統のお話をされたのは、その時一度きりだったと、私は記憶しています。それ以外の時には、自己責任の真理について、そこまで厳しい口調で語られたという記憶は、あまりありません。

○もしかしたら他にもあったかもしれませんけれど、その後はいつもの優しい五井先生に戻っていました。

○「誰が好きだの、嫌いだの、なんだのかんだの言うのは、全部“消えてゆく姿”なんだから、そう思って世界平和の祈りをしなさいよ。それでいいんだよ」。五井先生はそうおっしゃってくださいました。

○でも、私の心には、そのときの厳しいお話が「本当のことだろうな」

という感覚が、何十年も前に聞いたそのお話が、ずっと頭の中に残っていて離れず、2020年の春にそれを改めて思い出して、統一をしました。

○目を閉じて、「世界人類が平和でありますように。日本が平和でありますように。私たちの天命が完うされますように。守護霊さま、ありがとうございます。守護神さま、ありがとうございます」と祈りました。

○表向きの守護の神霊への感謝は、「守護霊さま、ありがとうございます。守護神さま、ありがとうございます」ですけれども、私は昔からの癖で、「守護霊さま・守護神さま、五井先生、ありがとうございます」と、心の中でいつも祈っています。

○そうやって…、そうですね、肉体の上で言いますと、意識の中心、塊というのは、だいたい胸のあたりから頭のあたりを、フワフワ、フワフワと登ったり降りたりしています。

○その意識の中心が、吐く息をコントロールすることによって、ものすごく細く長く、できるだけ持続するように息を吐き続けることによって、臍下丹田に息が収まるんです。

○収まると、意識の中心が魂にぴったりと一体化して収まるんですね。そうすると、想いがグラグラしたり、いろんなことを思わったりしなくなる状態になるんです。

○眼球を中心にして言いますと、まぶたを閉じているときの眼球の動きとしては、右目と左目の焦点を眉間の第三の眼に合わせるんですね。

○昭和の時代に手塚治虫さんの作品で、『三つ目がとおる』という漫画がありました、額に三つ目の眼がある少年が主人公の漫画でした。

○それと同じように、本当はみんなここに靈眼…、三つ目の眼を持っているんですけど、この星で「肉体は自分だ」と思うようになってしまって以降、その機能が閉じてしまったんですね。

○だから私たちは、眼球は二つしかないと思ってしまっているのですが、肉体上の眉間の箇所の次元が違うところに、私たちは三つ目の眼である靈眼を持っているんです。

○靈的に物事を見る眼……見るというよりは、一瞬にしてすべてがわかる眼です。

- “消えてゆく姿”で“世界平和の祈り”を、本気で真剣にやり込んだ方は、靈眼が開いていらっしゃる方が、かなりの確率でおられると思います。
- 頭で考えず、五感に頼らないで、一瞬にして、自分が意識を向けた対象の全貌がわかる眼を、私たちは、ここに持っているんです。
- 多分、それがちょっと発動したのだと思うのですが、2020年の春に統一をしているそのときに、私、何を“観じた”かと言いますと……、もう本当にこの世の言葉で表すのはもどかしいんですけど、「感じた」というのは、「感想の感」ではなく、「観察の観」です。
- 「感じた」と書く“感じる”と、「観じた」と書き表す“観る”は、まったく違うものです。似て非なるものなんですね。
- 感想の「感」の方の「感じた」というのは、だいたい五感の感覚で「感じた」です。そういう五感の感覚を使わず、意識・心・魂で観じるというのは、一瞬にしてすべてがわかる状態になります。
- 例えば、誰かと接しているときに、その人の魂の靈系統が二つか三つあるんですけど、そういう靈系統のそれぞれの流れ、それから守護靈・守護神さま、今生のその人の人生における意識の平均点などが、全部一瞬のうちに一緒に入ってくるんです。
- なんでそんなことが起こるかというと、私たちはこうやって体を持って生きていると、「私は私、あなたはあなた」と思ってしまいます。
- 例えば、三重県の中川さん。この間、電話でお話しましたけど、中川さんは三重県に住んでいて、私は東京都に住んでいる。
- 肉体の意識では「私たちは離れたところに住んでるよね」と思うんですけど、守護靈さま同士は繋がってるんですね。みんな、すべての人の守護靈さま同士は繋がってるんですよ。
- だからご自身が守っている肉体人間の状況というのは、例えば、私の守護靈さまは中川さんの守護靈さまと繋がってるものですから、私と中川さんが離れたところに暮らしていても、心の世界では本当は繋がっていて離れてないんですよ。
- そうした繋がり合いを守護靈・守護神さまがやってらっしゃるんですよ。私たち肉体側は、この体としてはやってないですけど、守護靈・守

護神さま同士が繋がってるから全部がわかるということになるんですね。

○と、話が脱線してばかりなんんですけど、その日に統一をしてたときにどうなったかというと、自分の心の中の暗闇の部分に、太陽の光が当たったかのように、心の奥の暗闇にうごめいている、いろんな自分がハッキリとわかったんです。

○そこには、被害者の自分と加害者の自分が、うごめいていたんです。バッティングしている、喧嘩している、仲が悪い、そりが合わない自分たちがいたんです。

○どっちも自分なんです。自分たちが仲悪くしているのが、あの方たちに反映して、「あの人たち、いやだな」と思う気持ちになって表われていたんだなって思った瞬間に、私の心から怒りが……、これは本当に、本当に、大げさな表現じゃなく怒りが消えたんです。

○時間は計っていませんでしたが、たぶん1分もかかっていなかったと思います。本当に心が楽になったんです。その人たちのことを何にも思わなくなったり。悪いとも良いとも思わなくなったりです。

○片方のメールのやり取りをした方とは、やっぱりメールのやり取りだけで済ますのは何か居心地が悪かったので、「電話をしよう」と思って、夜の10時頃だったと思いますけど電話をして、お話をしました。

○そのメールのやり取りには触れずに、普通に真理の話をして、電話は終わりました。私はそのとき、「あ、大丈夫だな。もうこの人のことを嫌いだとか、避けようとか、私は思わなくなったな」と、自分で確信を持ったんです。

○それ以降、どんなに自己顯示欲のある人が私に何を言ってきても、動じなくなったりです。

○白光の人たちにも、さまざまな方がいらっしゃいます。「自分が正しいと思っていることは、他人も正しいと思うはずだ」と思って押し付けてくるような、いろんな動きがあります。

○本当にその人が私心なく動いておられる場合は、一緒に動こうと思いますが、そうでないときはご遠慮させていただいております。

○今も、今に至るまで、いろんな人がいろんなことを言ってきます。だいたい、男性の方です。女性の方たちは、皆さん、おしとやかなんですね。何か思っていることがあっても、言ってこないんです。

○また、中澤さんと私がいたときには、私の方が物を言いやすいということもあったのかもしれません。

○中澤さんに話を持っていったら、一刀両断に切り捨てられてしまうようなところを、「齊藤くんなら耳を傾けてくれるだろう」と、思ってくださったのかもしれません。

○でも、どんな人がどんなことを言ってきても、そのことで怒りの心が湧くこともなければ、「いい」「悪い」と思うこともない、そんなふうに、本当に心が楽な状態になりました。

○時々、土曜日の夜などにお話してきたんですけども、私たちは皆、それが富士山を、思い思いの方向から登っている道の途上にあるんです。

○たとえば、この白光の道に繋がっていても、登る方向が違えば、お互いのやっていることがわからず、理解し合えないんですね。

○理解できないものを理解し合おうとする努力は、ある意味で美しいことですけれども、「批判・非難・評価せず、我一切関知せず」の観点から観ますと、頂上にまで登れば、お互いにわかり合えるときが来るんです。

○頂上に行くまでは、私たちは誰もが、ひとりひとり違う登り道を進んでゆくしかないんです。

○たとえば、富士山を南から登っている人と、北側から登っている人は、頂上に行くまでは会えません。

○それと同じで、お互いが全然景色の違う山道の途上にいながら、すべてを理解し合うなんてことは、できないんですね。

○根本では、「私たちはワンネス、一つだ」という話がありますけれども、それは意識が富士山の頂上へ行って、初めて自分のものになるという話なんです。

○それまでは、「ワンネスになりたいな」「一つ心になれたらいいな」という希望を持ちながらも、その希望を諦めないで、目の前の登り道を一步一步登っていくしかない。

○それは、岩の道かもしれませんし、草が生い茂った道かもしれない。滑りやすい砂の道かもしれません。富士山を登っていると、途中でいろんな道が出てきます。

○上方へ行くと、10合目の直前あたりでものすごく急なところがありますよね。そういう道もあるし、直線に登るのではなくて、右へ左へクネクネと行く、なだらかなところもあります。

○私たちひとりひとりの生き様というのは、そのように、富士山をそれぞれの方角から登っている姿なんだと思っています。だから、「批判・非難・評価せず」なんです。

○互いのことがわからないんですから、批判・非難・評価をする理由もないんですね。

○私は、人間というのは本当に、お互いがお互いの鏡になって、みんなが生きていると思っています。

○「あなたはどうこう…」と、相手のことをついつい思ったり、言ってしまうことがありますけれども、そのときに「ちょっと待てよ」と、相手に発しようとした言葉を自分の中に引き戻すんです。

○それで、「目の前の人に対してこういうことを言おうとしたけど、それは自分のことを映し出した感想だったな」と思い返して、相手に向けた言葉を自分に向け直すことで、自分の中で相手に対して思う想いの原因……、それが心の奥にあると見つけて、その「把われ」の想いの根本原因を“消えてゆく姿”にしてゆくことができるようになります。

○そうすると、なんて言うんでしょうね、いろんなことに「把われなくなる」「引っかかるなくなる」「つまずかなくなる」、「感情がグラグラすることがなくなる」、そんな状態になってゆきます。

○そうなればなるほど、それは私たちの靈体が大きくなっている状態だといえます。靈体が大きくなると、昔はなんかすぐにムッとしていたようなことでも、サラサラッと受け流すことができるようになります。

○別にこれは、宗教をやってるやってないに関係ないんですよ。普通に、何の信仰心もなくて生きてても、人間50年、60年、70年、80年と生きてゆく中で、そういう修行を、多かれ少なかれ誰もが、守護霊さまに自然にさせられているんです。

○ですから、一般的に言っても、おじいちゃん、おばあちゃんという世代になってくると、人間性に丸みが帯びてくる人が多いと思います。

○中には一部、70歳を超えても80歳を超えても、とんがった心の方もいらっしゃるかもしれませんけれども、世界中の多くの高齢者の方々というのは、人間的に円熟味を帯びて、若い人たちから見たら頼りになる存在になっていると思います。

○さて、一番最初のお話は、「時空を超える生き方」という話でした。それは、時間を超えるだけではなく、空間を超えるということでした。

○今、37分になろうとしていますよね。ここで10分ほど休憩を入れて、その後、空間の方のお話をしたいと思います。

○次元の違う世界、心の奥には、本当にいろんな天地があるんですけれども、私たちが見ている天地というのは、この地球界の地上界、現象界、肉体界、物質界…、いろんな言い方がありますが、この世界を私たちは見ております。

○でも、ちょっと波動をずらすと、そこに幽界の世界があったり、靈界の世界があったりするという、そういうお話を進めてまいります。

○そういうふうに話しているうちに、どんどん時間は経っていきますので、画面をタイトルの画面にします。50分まで休憩にしたいと思います。スライドに「39分から50分まで」と出たと思います。

○皆さんの姿は映らないようになっているとは思いますけれども、一応、私をスポットライトにしておいて、これで映らないようになったと思いますので、休憩にしましょう。50分を過ぎたら再開いたします。

<10分間休憩>

○それでは、50分を回りましたので再開いたします。

○時空のお話をすると申し上げましたが、その前に、「神様のお役に立ち

たい」という、私たちの気持ちがあります。その気持ちについて、少しお話ししたいと思います。

○これをお話しする前に、白光真宏会の教えの肝、白光の道の肝と言っているのですが、本当は本部が何よりも先に皆様にお伝えすればいいのにななど、個人的には思っていることをお伝えします。

○それは、瀬木元理事長がおっしゃっていた言葉で、「本心と業想念の截然（せつぜん）たる識別」という言葉があります。それが、白光の道の肝であると私は思っております。

○瀬木さんのご著書『宇宙から届いたマニュアル』に書いてあったと思います。その中に、「本心と業想念の截然たる識別がとても大事なことなんだよ」ということが書かれています。

○この観点を自分の心に持っていないと、「神様のお役に立ちたい」という気持ちが、いつの間にか自己顯示欲の満足を志向する心の動きにすり替わってしまうことがあるんです。

○どちらかというと、気をつけなければならぬのは、私たち男性の方です。男性というのは、どうしても人から認められたいという気持ちが、意識・無意識に関わらず強い傾向があるので、注意が必要です。

○「神様のお役に立ちたい」という純粋な気持ちが、「自分を表したい」「自分を認めてもらいたい」という気持ちに、いつの間にか、すり替わってしまうことがあるんですね。

○それは、この道の肝である「本心と業想念の截然たる識別」で、自分を見ていなかからなんです。

○人のことはどうでもいいんです。「どうでもいい」と言うと語弊があるかもしれません、他人に感じることは、全部自分のことですから、どこまで行っても私たち自身が自らを磨き高め上げ、「神そのものとなるのである」という自覚を極める道を歩む以外にないんです。

○「人様を救って差し上げたい」「あの方を助けて差し上げたい」という気持ちも、もちろん私たちは持っていますけれども、肉体を持った身で、人様を根底から救って差し上げるなんて、そんな大それたことは、肉体人間同士ではできません。

○それをやってくださるのは、すべて守護霊さま・守護神さまたちです。

○肉体に生きている私たちが、守護霊・守護神さまと本当に一つの意識で動けていればいいのですが、どうしても「この体が自分だ」という想いがある限り、守護霊さまと自分の間にギャップが生じてしまいます。

○そこは、「本心と業想念をしっかりと見極める」という意識を持つことでカバーできるところだと思いますので、お互いにそのあたりのことを気をつけてまいりましょう。

○ここで話を、時空の話に戻します。もう何十年も前、2000年に入った頃かその前だったか忘れましたが、次元の異なる様々な天地がどういうふうに成り立っているのかを、映像で見たことがあります。

○言葉で表わしきれないので、たとえ話でしか説明できないのですが、「お餅を焼く網」を想像してください。あれは2次元の網ですね。平たいところに、縦の線と横の線があります。

○それが立体になると、縦縦縦縦……、横横横横……と広がってくろ。一番わかりやすいのは、子供が遊ぶジャングルジムです。あの状態になると、四角いサイコロのような空間が、縦と横の線が交差するところに出来上がります。

○時空間にある様々な天地というのは、縦横交差の線が立体に広がった世界が、波動を変えて幾重にも重なり合って存在しているものなんです。

○たとえば、「肉体界」「幽界」「靈界」「神界」という言い方があります。それぞれの階層の中にも、いろんな世界があるんです。

○靈界の中にもいろんな天地があり、神界の中にもいろんな天地があります。「いろんな」と言っても、数えきれないほどたくさんの天地が、それぞれの階層に存在しています。

○ありとあらゆる意識レベルの人たちが、勢ぞろいしているのは、この世だけ、肉体界だけなんです。

○だから、私はよく近しい人と話して笑うんですけど、「この世というのは、あらゆる意識レベルの人類が勢ぞろいした意識レベルの万博博覧会場だね」って言うんですね。

- この世に来れば、この肉体界に来れば、地獄の住人のような意識を持った人間から、神や天使、仏と呼ばれるような人たちまで、ありとあらゆる意識レベルの人たちが、この世界で一堂に会しているんです。
- あの世では、そういうことはありません。それは、あの世というの、波動の似通った人しか、同じ天地に存在できないからです。
- では、なぜそんなふうに、波動や意識レベルの異なる人たちが同居する世界に、私たちは生まれてきたのでしょうか？なぜ、わざわざ、そんなに面倒くさい世界に降りてくるのでしょうか？
- その答えは、守護霊・守護神の立場から申し上げると、この世が、魂を成長させるのに最も適した場所だからです。
- 肉体というのは、ものすごく不自由なものです。しかし、五井先生は「あなた方は光なんだよ、命の光なんだよ」とおっしゃいました。また、「肉体なんていう小さな器に収まっているけれども、本当は宇宙に広がって自由自在に動けるのが、人間の本質なんだよ」と教えてくださいました。
- この肉体界にいる間は、私たちはこの身長何十センチ、体重何十キロというこの体の中で、一日中、この体の中から世界を見て、自分と違う形で表われて生きている他人と接して生きています。
- でも、自分と違う形で表われているその他人も、命の本質をじっと見てゆけば、自分の大元と一つなんです。繋がっているんです。
- だから、「人間はみんな一つなんだよ」「ワンネスなんだよ」という話になってくるんです。
- ここにいる方々も、そういう“自我”というものがだいぶ薄れてきていて、「人間って、離れて生きているように見えるけど、本当は同じ命を生きているんだよね」「宇宙神の中では一つなんだよね」ってことを、もう重々わかった上で生きておられると思います。
- しかし、世の中を見渡してみると、まだまだ命の本来性にまで意識が及んでいない人たちがたくさんいます。
- 「お前のものは俺のもの、俺のものは俺のもの」という言葉があります。この言葉の出所がわかった方がいらっしゃいます？これは、ドラえも

んに出てくるジャイアンの言葉です。

○でも、このジャイアンの言葉こそが、多くの地球人がやっていることなんですね。「お前のものは俺のもの、俺のものは俺のもの」……、地球上の大きな国々は、まさにそうやって動いていますよね。

○話を時空の話に戻しますが、さきほどの網目が立体になったものが、物質波動と精神波動が少し変わるだけで異次元の世界になるんです。

○違う網目の世界になるんです。

○また、物質波動と精神波動の波長を変えると、また違う時空の広がりが見えるようになるんです。たとえば、今ここに私がいますけれども、この場所で波動を変えることで、異次元の世界がそこに現われるんです。

○ただし、この話は、知っていても知らなくてもいいので、「そういうふうにいろんな天地があるんだね」ぐらいの理解でいいと思います。

○でも私は、その時空間の在り方の映像を見て以降、ものの考え方がずいぶん変わりました。

○先週、「私が私だと思っていた私は、本当の私ではなかったんだな」というお話をしましたけれども、この言葉は、ある時期に、私が唱え言のように思っていた言葉です。

○どうして何度も何度もそう思ったのかと申しますと、そう思うたびに守護霊さまが、「神聖の自分というのはこういうものなんだよ」「神聖のあなたというのはこうなんだよ」と、ひらめきや直観で言葉にして教えてくださったからなんです。だから、それが楽しみで楽しみで、何度も何度も繰り返していた時期がありました。

○これは、今夜お話しする内容ともつながってくるのですが、「自分が自分だと思っていたのは、本当の自分じゃなかったんだ」というのは、般若心経の中の「色即是空・空即是色」の話につながってきます。

○「自分が自分だと思っていたのは、本当の自分じゃなかった」というのは、「色即是空」なんですね。

○また、今夜、この部分をお話ししますが、

「人間は本来、神の分け御靈であって、業生ではなく、常に守護靈・守護神によって守られているものである。」

「私が語る言葉は、神そのものの言葉であり、私が発する想念は、神そのものの想念であり、私が表す行為は神そのものの行為である。」

「私が語ること・想うこと・表すことは、すべて人類のことのみ、人類の幸せのみ。人類の平和のみ。人類が真理に目覚めることのみ。故に、私個に関する一切の言葉・想念・行為に私心なし、自我なし、対立なし。すべては宇宙そのもの、光そのもの、真理そのもの、神の存在そのものなり。」

○これらの言葉はみんな、「空即是色」の言葉と同じなんです。

○この今お話しした三つの宣言文の言葉と、自分の意識の実態が近ければ近いほど、「空即是色」の世界に入って生きているということになります。

○逆に、この三つの宣言文の言葉と、実際に肉体を持って生きている意識レベルが離れていると、「空即是色」と言われてもピンとこない、ということになります。

○五井先生の『般若心経』の解説は、私がずいぶん若い頃…、20代の頃に読んでいました。でも当時は、宗教心もあまりなかったこともあってか、よくわからなかったんです。

○今では、60歳を迎えるこの年になって、ようやく『般若心経』に書かれている言葉を、「味わって」読むことができるようになりました。とはいえ、私は漢文が読めるわけではありません。

○「観自在菩薩行深般若波羅蜜多時……」と唱えても、般若心経が何を言っているのか、当時はまったくわからなかったんです。

○五井先生の『空即是色 般若心経の世界』というご著書の冒頭の方に、現代語訳が載っていましたけれど、それを読んでもやっぱりよくわからなかったんです。

○10日ぐらい前に、統一をして守護靈さまにお尋ねしたら、「こういうふうにやつたらいいよ」というガイドの言葉が出てきて、その通りに動いたら、メールに書いてあるような、比較的わかりやすい現代語訳が出

てきました。

○それで、私も改めて「なるほど、こういうことだったんだ」と読んでいました。

○それを読んでいくうちに、「ここに書かれていることは全部、我々がやっていることだよね」と思いました。

○だから、私たちにとっての般若心経というのは、今やってることを違う角度から見るためにあるものなんだと思っております。

○今夜は、今の時間ほど突き詰めた話はしません。けれども、色即是空・空即是色の部分の本当の意味が理解できるだけでも、私たちの日常生活における『消えてゆく姿で世界平和の祈り』の実践に役立つと思います。

○10日ぐらい前に、今夜、行なうプログラムのタイトルを、『神聖の眼を養う日』とつけました。それで、5月1日に白光誌が来て開いたら、由佳先生のご法話のタイトルが『神聖の目』だったんでびっくりしたんですけど、“神聖の眼”を私たちの標準装備の眼にする時代が来たということだと思います。

○そうは言っても、やっぱり何週間か何ヶ月かかかるかも知れないと、私は今年中に、間違いなく神聖の眼を持って生きる人たちになれると思ってます。

○この勉強会を始めたのは2023年9月で、その頃から「みんなが神我一体になる」「みんなが悟りを開く」とずっと言ってきたんですけど、私は今年、一気に、飛躍的に、そういう人たちが出てくると思ってます。

○去年1年だけでも結構いらっしゃいました。ズーム祈りの会に参加されてる方の中で、悟りを開かれてる方、神我一体になられてる方々が出てきておられます。

○私たちがなる神我一体というのは、五井先生の神我一体とは違って、神界の入口に入ったすぐの辺りです。

○でも、私たちの仲間には、もうそれを成就している人たちがいっぱいいらっしゃいます。そういう人たちというのは、「私、悟ったんだよ」とか、「私、神我一体になったんだよ」なんて誰も言わないんです。

○それはそれだけ心が立派だっていうことの証だと思うんですけど、私みたいに人前に出て喋る人より、日常生活を普通に生きて、目立たないで生きてる方の中に、かえって立派な方がいっぱいいらっしゃるんだろうなっていうのを本当にしみじみと感じております。

○やはり、皆さんひとりひとり、役割が違うんですよね。人前で話す役割の人もいれば、おうちで世界平和の祈りをすることで地球に光を送る人もいれば、印を一生懸命組むことで光を送る人もいれば、ピースポールを建てて歩くことで地球に光の磁場をたくさん作ってゆく人もいれば、WPPC をたくさん開催してまだ祈りに目が向かない人たちの心に目覚めを促す役割を持った方々もいればというふうに、私たちはそれぞれの役割を果たしながら生きています。

○そういうなかにあって、私たち人間ってのは、人のことを羨ましいって思う気持ちが出ることがありますけど、本当は羨ましがる必要なんかまったくないんですね。

○自分には自分にしかできない役割、天命っていうのを、みんな私たちひとりひとり、各々が自分の役割を持って生きているんです。

○私いつも心の中だけで思ってることなんですけど、「五井先生っていう大きな御神体の足の指先の爪の細胞でも、五井先生のすね毛の細胞でもいいから、五井先生のお仕事にお使いください」っていうお祈りをしております。

○「五井先生の脳細胞じゃなきゃ嫌だ」とか、「五井先生の目の細胞じゃなきゃ嫌だ」とか、「五井先生の心臓の細胞の働きじゃなきゃ嫌だ」とか、そんなことはゆめゆめ思っておりません。

○みんなみんな、それぞれが、五井先生っていう大きな光の体の中のどこかの細胞の働きを持って、毎日を過ごしていらっしゃいます。

○その中で、こういう同志のやり取りの中で、同じ白光なのにみんな信じることが全然違うというなかで、「その人がいいと思ってることを押し付けられて困っている」とかいう相談を受けますけれども、「それはさらりと流した方がいいですよ」「あんまり、真に受けてお聞きにならないようにしたらいかがですか」ってお伝えしています。

○先ほどの富士山の例えですが、「東から登ってる人と西から登ってる人

は頂上に行くまで会うことができないんだから、もうそれでいいじゃないですか。わざわざ横に回って相手のところへ行きますか？」っていう話をしてます。

○みんな一人一人が真理の受け取り方が違うんです。神我一体になる道のりもみんな違うんですね。

○なので、誰がいいわけでも誰が悪いわけでもない。それぞれがそれぞれの道をゆくだけです。

○できれば、人様にご迷惑をかけないのがいいですね。嫌がってるのに押しつけるとかいうのは、五井先生はお喜びにならないですからね。

○さっき、休憩前に皆さんのお顔を見ながら喋ってたら、皆さんの響きがクローズアップされて、そちらへ流れるということがありました。あまり私はそういうことは経験しないほうなんです。

○一対一のやり取りでは、簡単にそういう状態になれるんですけど、こうやってたくさんの方にお話する場合に、ひとりにクローズアップして話がそちらへ向くという状態になるという経験があまりないんで、私もさっき少し戸惑ったんですけど、休憩の間に普通の波動に調整して戻ってきました。

○そのときに、何をこの画面から感じ取っていたかと申しますと、皆さんの心の美しさ、心の清らかさ、心の綺麗さが迫ってくるんです。

○いつも朝夜の Zoom でも、「神々や天使、菩薩の集合だな」って思って見てますけれど、皆さんも私もここ数年で、本当に立派になっていると思います。

○「いやあ、私なんて…」って思う方はいらっしゃらないとは思いますが、もしいらっしゃっても大丈夫です。必ず、「私は変わってたんだ」って思うときが来ます。

○一般的な守護霊さまの導き方っていうのは、本人が知らない間に磨き上げて立派にしてくださるんです。ですから、ドラマチックな神我一体の体験をする人って、多分 100 人いても 1 人もいないと思います。知らないうちに変わっていったっていうのが普通なんだと思います。

○知らないうちですから、「自分が立派になった」だなんて思わないで生

きている場合があるんですね。実は立派になってるのに、まだお気づきにならないっていう場合です。私はそういう方々に、ご自分の立派さに気がついていただきたいなって、いつも思っています。

○そういう方々が自分の素晴らしさに気がついてくださったら、もっと靈体が大きくなつて、もっとお働きも大きくなつて、その方が放つ光がもっと強くなるのになあ、と思って見ております。

○でも、それは私が心配するような話ではなくて、一人一人の守護霊さま・守護神さまの中で、ちゃんと未来への道筋ができていますので、悟るべきときが必ず来ます。

○「なかなか真剣にやる、やる気が起きないよね」という方も、心のお尻に火がついて、真剣にやらなきゃいられない時が来ます。ただ、そのタイミングがみんな違うんです。

○私たちはロボットじゃありませんから、同時に立派になるとか、同時に死ぬとか、そういう存在ではないんですね。だからこそ、ご自分の守護霊さま・守護神さまの手をつかんで離さない生き方というのが一番大切なことだと思います。

○そうしたら、守護霊さまが本当にうまく導いてくださいます。知らないうちに立派になっているんです。それは、おひとりおひとりの守護霊さま・守護神さまの腕なんです。

○みんな、それぞれに腕のいい守護霊さま・守護神さまがついていらっしゃいます。すると、肉体の側は結構のんきに過ごしていても、知らないうちに立派になっていることがあるんです。

○そのときになって初めて気づくことは、「ああ、自分が自分を育ててきた姿だったんだな」ということです。

○守護霊さまは他人じゃありません。守護神さまも他人じゃありません。自分の内部神性なんです。魂の中に組み込まれている存在なんです。

○だから、守護霊さまを外しても、守護神さまを外しても、私たち人間は成り立たないんです。

○守護霊さまがいて、守護神さまがいて、もっと細かく言えば、副守護霊さまが何名かいらして、指導霊さまが何名か見てくださっていて、守

護神さまが最低一人、大きな働きをする人には複数の守護神さまがついていて、そのあと、その人の分け御靈としての人間の側の意識がある。それが一つになって、一人の人間が出来上がっているんです。

○そうやって本当は一つなのに、見えも聞こえもしないから、信じられないとか、真剣に一つになれないとか、ついつい思ってしまうんですけども、「守護靈さまありがとうございます」「守護神さまありがとうございます」って、年がら年中、感謝の祈りを続けていると、「なんだ、一つだったんだ」っていう、覆しようのない実感が湧いてきます。

○日常生活の中にあって、特に一人の時間なんかに、自分っていう意識が前面に出てくるときがあります。

○例えば、みんなで力を合わせて何かをしているときには、「自分が自分が」って思う方は少ないと思うんですけど、一人になって、周りに人がいなくなると、ありのままそのまま自分が表面化するんです。

○この間も、誰かとそんな話をして笑ったんですけど、家の中で一人でいると、ついつい油断してだらけてしましますよね。そういう、だらけているような、リラックスしている時間に、自分が何を思っているかを観察してみると、自分の意識の平均点がわかります。

○あるアメリカの学者さんの本で、『パワーかフォースか』という本があるんですけど、そこでは、人間の意識レベルを千段階に細かく分類しておられます。

○そういう意識レベルを観察するのに最適な時間は、一人の時間なんです。例えば、家族と住んでいても、お風呂には一人で入っていることが多いですよね。

○そういう時間に、自分が何を思っているのかを観察してみると、自分の意識レベルの平均点がわかります。

○それがわかったら、「ああ、この想いの癖を神聖の習慣に変えたらいいな」とか、いろんな知恵を守護靈さまが授けてくださるんですね。

○守護靈さまが授けてくださる響きというのは、声で聞こえるとか、他人の言葉として出てくるのではなく、自分自身の想いとして顕われます。それが、守護靈さまの導き方なんです。

○でも、ついつい「自分が自分で自分に」っていう、自我の習慣が抜けないと、せっかくの導きを覆してしまうんですね。

○だから、五井先生は『神と人間』の中で、「第一直観が大切である。第二直観、第三直観・第四直観というのは、業の答えであることが多いから注意せねばならぬ」と書かれていたと思います。

○はい、そういうことで、今日のお話はこれで終わりにしたいと思います。今、35分なので、神聖復活の印を一動作、5秒ぐらいで一回組みたいと思います。

<神聖復活の印を一回>

○せっかく30何人いらっしゃるので、ちょっと皆さんにお尋ねしたいことがあります。

○先週の「神聖で繋がり合う日」のオープニングに音楽を流したんですけど、その音楽というのは、私が昔、何十年か前に富士聖地で行事が終わって、みんなが帰るときにスピーカーを通して流れていたBGMだったと記憶しています。

○それを、ちょっとキーボードで弾いてみます。音楽ソフトに入れたんで、今から再生してみますね。聞こえるかな？

(音楽を再生)

○こんな音楽なんんですけど、聞いたことある方、ちょっと手を挙げてください。誰も聞いたことがない？

○ということは、「富士聖地で聞いた」という私の記憶は、違う場所で聞いたものかもしれないですね。

○頭の中にずっと残っていたメロディーを、耳コピーではなく記憶コピーで、自分で鍵盤で弾いて、音楽ソフトに移してみたんですけど、白光ではなかったようですね。わかりました。ありがとうございます。

○それでは、これですべて終わりにしたいと思います。ゴールデンウィークのお忙しい中、ご参加くださり本当にありがとうございました。

○皆様のマイクをオンにいたします。ありがとうございました。

以上